

保育所実習が保育者志望の意欲に及ぼす影響について

The Effect of the Practice Teaching at Nursery Schools on Students' Desire to Be a Nursery School Teacher

(2003年3月31日受理)

尾崎 恭子 長廣真理子 加藤 泰彦
 Ozaki Kyoko Nagahiro Mariko Kato Yasuhiko

Key words : 実習, 保育所, 保育職, 幼児教育

要 約

保育所実習におけるどのような要因や経験が将来保育者になりたい学生の意欲に影響しているかを明らかにするために、保育所実習終了直後に、幼児教育科2年生を対象にアンケート調査を行った。そして、「保育者になりたい意欲」と3つの枠組（「実習保育所に対する評価に関するもの、担任に対する評価に関するもの、実習に対する自己評価に関するもの」との関係）を分析した。その結果、実習生個人の実習体験の評価よりも、実習保育所の環境や担任のパーソナリティーの方がより強い影響を及ぼしていることが明らかになった。

所で実習した。

1. は じ め に

保育所実習は養成校と学生と実習園を含めた3者の関係のもとで成り立っている。実習の成果が養成校の教育力と実習生本人の保育に対する情熱や努力に大きく左右されるのはもちろんであるが、保育現場での実習体験が将来保育者になりたい学生の意欲に大きな影響を及ぼしていることも十分に想定されうることである。(文献1, 2)

本研究はそのような観点から、保育所実習におけるどのような要因や経験が将来保育者になりたい学生の意欲に影響しているかを明らかにしようとするものである。

2. 方 法

(1) アンケートの対象者

本稿で扱うデータは、2002年6月に保育所実習（保育実習Ⅰ・Ⅱ 計20日間）を行った中国短期大学幼児教育科2年生のものである。保育所実習を行った学生は124人であり、約半数が岡山県内、約半数が岡山県外の保育

(2) アンケートの内容

本研究のアンケート調査は、マークシートを用いて実習終了直後に行われた。

アンケート項目は4つの枠組から構成された計15項目から作られている。4つの枠組の1番目の枠組は実習保育所に対する評価に関係する5項目（NO.1—NO.5）であり、2番目の枠組は担任に対する評価に関係する4項目（NO.6—NO.9）であり、3番目の枠組は実習に対する自己評価に関係する5項目（NO.10—NO.14）である。そして、4番目の枠組は実習経験を総括的に評価する1項目（NO.15）である。(表1参照)

学生は無記名方式で、最初に表1の14項目で「はい」「いいえ」のどちらかにマークした。そして最後に、NO.15の「実習を終えて保育者になりたい気持ちはどうなりましたか」で「強くなった」、「かわらない」、「弱くなった」のいずれかにマークした。

表1 保育所実習後アンケート

	質 問	回	答
1	実習園は全体的にアットホームな環境でしたか？	は い	い い え
2	実習園は遊び中心の保育をしていましたか？	は い	い い え
3	実習園の子どもたちは全体的に生き生きとしていましたか？	は い	い い え
4	クラスの子どもと担任の人間関係はうまくいっていたと思いますか？	は い	い い え
5	実習園で実習できたことをよかったと思いますか？	は い	い い え
6	担任の実習生の受け入れ準備ができていましたか？	は い	い い え
7	指導案の内容や書き方をていねいに指導してもらえましたか？	は い	い い え
8	放課後又は午睡時間等に指導助言のミーティングが毎日ありましたか？	は い	い い え
9	あなたの実習内容に対して肯定的ではめられることが多かったですか？	は い	い い え
10	あなたは全体的に子どもに積極的にしかかわることができましたか？	は い	い い え
11	子どもが喜び活動が盛り上って設定保育がうまくいきましたか？	は い	い い え
12	事務的な仕事や記録などが迅速かつ的確に処理できましたか？	は い	い い え
13	実習期間中健康で元気に過ごせましたか？	は い	い い え
14	あなたと担任の先生との人間関係はうまくいきましたか？	は い	い い え
15	実習を終えて保育者になりたい気持ちはどうなりましたか？	強くなった	かわらない 弱くなった

3. 結 果 と 考 察

(1) アンケート調査の結果について

各項目を集計した結果を表にすると、表2のようになる。

表2 保育所実習後アンケート結果

	質 問	は い	い い え
1	実習園は全体的にアットホームな環境でしたか？	72 (58.1%)	52 (41.9%)
2	実習園は遊び中心の保育をしていましたか？	95 (77.2%)	28 (22.8%)
3	実習園の子どもたちは全体的に生き生きとしていましたか？	98 (79.0%)	26 (21.0%)
4	クラスの子どもと担任の人間関係はうまくいっていたと思いますか？	95 (76.6%)	29 (23.4%)
5	実習園で実習できたことをよかったと思いますか？	107 (86.9%)	17 (13.1%)
6	担任の実習生の受け入れ準備ができていましたか？	88 (71.0%)	36 (20.9%)
7	指導案の内容や書き方をていねいに指導してもらえましたか？	88 (70.1%)	36 (29.0%)
8	放課後又は午睡時間等に指導助言のミーティングが毎日ありましたか？	58 (47.1%)	65 (52.9%)
9	あなたの実習内容に対して肯定的ではめられることが多かったですか？	91 (75.2%)	30 (24.8%)
10	あなたは全体的に子どもに積極的にしかかわることができましたか？	69 (55.6%)	55 (44.4%)
11	子どもが喜び活動が盛り上って設定保育がうまくいきましたか？	38 (31.1%)	84 (68.9%)
12	事務的な仕事や記録などが迅速かつ的確に処理できましたか？	47 (38.2%)	76 (61.8%)

13	実習期間中健康で元気に過ごせましたか？	48 (39.3%)	74 (60.7%)
14	あなたと担任の先生との人間関係はうまくいきましたか？	73 (58.9%)	51 (41.1%)

		強くなった	かわらない	弱くなった
15	実習を終えて保育者になりたい気持ちはどうになりましたか？	76(62.3%)	36(29.5%)	10(8.0%)

表内数値は人数（％）

表2からわかるように、3つの枠組から「はい」と答えた肯定的な評価と「いいえ」と答えた否定的な評価を見てみると、実習保育所に対する評価のNO. 1～5では5項目中の全てが肯定的な評価の割合が否定的な評価の割合より多く、担任に対する評価のNO. 6～9では4項目中の3項目が肯定的な評価の割合が否定的な評価の割合より多く、実習に対する自己評価のNO.10～14では肯定的な評価が5項目中2項目で、否定的な評価の割合が肯定的な評価の割合より多かったことがわかる。また、実習経験を総括するNO.15の「実習を終えて保育者にな

りたい気持ちはどうになりましたか」では、「強くなった」が60％を占め、「かわらない」や「弱くなった」よりも多かった。

（2） アンケート調査の結果と保育者になりたい意欲との関係について

本研究のねらいに即して、NO.15の「実習を終えて保育者になりたい気持ちはどうになりましたか」という項目が他の14項目とどのような関係にあるかをクロスさせて集計した。その結果は表3のとおりである。

表3 保育者になりたい意欲と他の項目との関係

		保育者になりたい意欲		
		強くなった	かわらない	弱くなった
1. 実習園は全体的にアットホームな環境でしたか？	は い	51(人)	19(人)	1(人)
	いいえ	25	17	9
2. 実習園は遊び中心の保育をしていましたか？	は い	64	25	5
	いいえ	11	11	5
3. 実習園の子どもたちは全体的に生き生きとしていましたか？	は い	64	30	3
	いいえ	12	6	7
4. クラスの子どもと担任の人間関係はうまくいっていたと思いますか？	は い	63	27	4
	いいえ	13	9	6
5. 実習園で実習できたことをよかったと思いますか？	は い	73	29	4
	いいえ	3	7	6
6. 担任の実習生の受け入れ準備ができていましたか？	は い	60	23	4
	いいえ	16	13	6
7. 指導案の内容や書き方をていねいに指導して貰えましたか？	は い	55	27	5
	いいえ	21	9	5
8. 放課後又は午睡時間等に指導助言のミーティングが毎日ありましたか？	は い	35	17	4
	いいえ	40	19	6
9. あなたの实習内容に対して肯定的ではめられることが多かったですか？	は い	65	24	2
	いいえ	10	11	8

10. あなたは全体的に子どもに積極的にかかわることができましたか？	は い	48	17	3
	いいえ	28	19	7
11. 子どもが喜び活動が盛り上って設定保育がうまくいきましたか？	は い	23	10	5
	いいえ	51	26	5
12. 事務的な仕事や記録などが迅速かつ的確に処理できましたか？	は い	34	10	3
	いいえ	41	26	7
13. 実習期間中健康で元気に過ごせましたか？	は い	34	12	1
	いいえ	41	23	9
14. あなたと担任の先生との人間関係はうまくいきましたか？	は い	55	15	2
	いいえ	21	21	8

表内数値は人数

表3を見ると、保育者になりたい意欲が「強くなった」と答えた人で「はい」という答え（肯定的な評価）が「いいえ」という答え（否定的な評価）より多かったのは14項目中10項目であった。そして、保育者になりたい意欲が「弱くなった」と答えた人で「いいえ」という答えが「はい」という答えより多かったのは14項目中11項目

目であった。このことから、全体として、保育者になりたい意欲と14項目に対する答えとの間には相関的な関係があることが想定される。そこで、保育者になりたい意欲と14項目に対する答えとの関係及び人数の現れ方に偏りが見られるかどうかを調べるためにカイ自乗検定を行った。その結果は、次のとおりである。

- | | |
|-------------------------------------|--|
| 1. 実習園は全体的にアットホームな環境でしたか？ | $(\chi^2_{(2)}=12.46, p < .01 \text{ Phi}=0.319)$ |
| 2. 実習園は遊び中心の保育をしていましたか？ | $(\chi^2_{(2)}=8.36, p < .05 \text{ Phi}=0.262)$ |
| 3. 実習園の子どもたちは全体的に生き生きとしていましたか？ | $(\chi^2_{(2)}=16.39, p < .01 \text{ Phi}=0.366)$ |
| 4. クラスの子どもと担任の人間関係はうまくいっていたと思いますか？ | $(\chi^2_{(2)}=9.31, p < .01 \text{ Phi}=0.276)$ |
| 5. 実習園で実習できたことをよかったと思いますか？ | $(\chi^2_{(2)}=26.16, p < .01 \text{ Phi}=0.463)$ |
| 6. 担任の実習生の受け入れ準備ができていましたか？ | $(\chi^2_{(2)}=7.92, p < .05 \text{ Phi}=0.254)$ |
| 7. 指導案の内容や書き方をていねいに指導してもらえましたか？ | $(\chi^2_{(2)}=2.50, ns)$ |
| 8. 放課後又は午睡時間等に指導助言のミーティングが毎日ありましたか？ | $(\chi^2_{(2)}=0.17, ns)$ |
| 9. あなたの实習内容に対して肯定的ではめられることが多かったですか？ | $(\chi^2_{(2)}=22.82, p < .01 \text{ Phi}=0.436)$ |
| 10. あなたは全体的に子どもに積極的にかかわることができましたか？ | $(\chi^2_{(2)}=5.43, .05 < p < .10 \text{ Phi}=0.211)$ |
| 11. 子どもが喜び活動が盛り上って設定保育がうまくいきましたか？ | $(\chi^2_{(2)}=1.81, ns)$ |
| 12. 事務的な仕事や記録などが迅速かつ的確に処理できましたか？ | $(\chi^2_{(2)}=3.51, ns)$ |
| 13. 実習期間中健康で元気に過ごせましたか？ | $(\chi^2_{(2)}=5.11, ns)$ |
| 14. あなたと担任の先生との人間関係はうまくいきましたか？ | $(\chi^2_{(2)}=16.37, p < .01 \text{ Phi}=0.366)$ |

カイ自乗検定の結果、人数比率の差に有意性が見られたのは、NO. 1, 2, 3, 4, 5, 6, 9, 10, 14の9項目であった。そこで、有意性が見られたこれらの9項目について残差分析を行い、保育者になりたい意欲を示

す3つのカテゴリーと14項目の肯定的な答えと否定的な答えのどのセルに有意性があるかを調べることにした。その結果を示せば表4のとおりである。

表4 残差分析の結果

		強くなった	かわらない	弱くなった
1. 実習園は全体的にアットホームな環境でしたか？	は い	2.6*	-0.8 ^{ns}	-3.2**
	いいえ	-2.6*	0.8 ^{ns}	3.2**
2. 実習園は遊び中心の保育をしていましたか？	は い	2.6**	-1.4 ^{ns}	-2.2*
	いいえ	-2.6**	1.4 ^{ns}	2.2*
3. 実習園の子どもたちは全体的に生き生きとしていましたか？	は い	1.7 ⁺	0.7 ^{ns}	-4.0**
	いいえ	-1.7 ⁺	-0.7 ^{ns}	4.0**
4. クラスの子どもと担任の人間関係はうまくいっていたと思いますか？	は い	2.0*	-0.3 ^{ns}	-2.9**
	いいえ	-2.0*	0.3 ^{ns}	2.9**
5. 実習園で実習できたことをよかったと思いますか？	は い	3.9**	-1.3 ^{ns}	-4.6**
	いいえ	-3.9**	1.3 ^{ns}	4.6**
6. 担任の実習生の受け入れ準備ができていましたか？	は い	2.4*	-1.2 ^{ns}	-2.3*
	いいえ	-2.4*	1.2 ^{ns}	2.3*
9. あなたの実習内容に対して肯定的ではめられることが多かったですか？	は い	3.6**	-1.2 ^{ns}	-4.3**
	いいえ	-3.6**	1.2 ^{ns}	4.3**
10. あなたは全体的に子どもに積極的にかかわることができましたか？	は い	2.1*	-1.2 ^{ns}	-1.7 ⁺
	いいえ	-2.1*	1.2 ^{ns}	1.7 ⁺
14. あなたと担任の先生との人間関係はうまくいきましたか？	は い	3.9**	-2.5*	-2.6**
	いいえ	-3.9**	2.5*	2.6**

表内数値は調整された残差, ⁺p<.10 *p<.05 **p<.01

(3) 実習保育所に対する評価に関する項目と保育者になりたい意欲との関係について

実習保育所に対する評価に関する項目はNO. 1 からNO. 5 の5つであるが、表4からわかるようにその全てにおいて有意な差があった。

NO. 1の残差を見ると(文献3),「はい」という答えでは保育者になりたい意欲が「強くなった」が有意に多く($p<.05$),「いいえ」という答えでは「弱くなった」が有意に多かった($p<.01$)。したがって、実習保育所はアットホームな環境であったという肯定的な評価をした学生は保育者になりたい意欲が強くなり、アットホームな環境ではなかったという否定的な評価をした学生は保育者になりたい意欲が弱くなっていることを示唆している。

NO. 2の残差を見ると、「はい」という答えでは保育者になりたい意欲が「強くなった」が有意に多く($p<.01$),「いいえ」という答えでは「弱くなった」が有意に

多かった($p<.05$)。したがって、実習保育所は遊び中心の保育をしていたという肯定的な評価をした学生は保育者になりたい意欲が強くなり、実習保育所は遊び中心の保育ではなかったという否定的な評価をした学生は保育者になりたい意欲が弱くなっていることを示唆している。

NO. 3の残差を見ると、「はい」という答えでは保育者になりたい意欲が「強くなった」が有意に多く($p<.10$),「いいえ」という答えでは「弱くなった」が有意に多かった($p<.01$)。したがって、実習保育所の子どもたちは生き生きとしていたという肯定的な評価をした学生は保育者になりたい意欲が強くなり、実習保育所の子どもたちは生き生きとしていなかったという否定的な評価をした学生は保育者になりたい意欲が弱くなっていることを示唆している。

NO. 4の残差を見ると、「はい」という答えでは保育者になりたい意欲が「強くなった」が有意に多く($p<.05$)。したがって、実習保育所は遊び中心の保育をしていたという肯定的な評価をした学生は保育者になりたい意欲が強くなり、実習保育所は遊び中心の保育ではなかったという否定的な評価をした学生は保育者になりたい意欲が弱くなっていることを示唆している。

05), 「いいえ」という答えでは「弱くなった」が有意に多かった ($p < .01$)。したがって、クラスの子どもと担任の人間関係はうまくいったという肯定的な評価をした学生は保育者になりたい意欲が強くなり、クラスの子どもと担任の人間関係はうまくいかなかったという否定的な評価をした学生は保育者になりたい意欲が弱くなっていることを示唆している。

NO. 5の残差を見ると、「はい」という答えでは保育者になりたい意欲が「強くなった」が有意に多く ($p < .01$)、「いいえ」という答えでは「弱くなった」が有意に多かった ($p < .01$)。したがって、実習保育所で実習できてよかったという肯定的な評価をした学生は保育者になりたい意欲が強くなり、よくなかったという否定的な評価をした学生は保育者になりたい意欲が弱くなっていることを示唆している。

(4) 担任に対する評価に関する項目と保育者になりたい意欲との関係について

担任に対する評価に関する項目はNO. 6からNO. 9の4つであるが、表4からわかるように、NO. 6とNO. 9には有意な差があったが、NO. 7とNO. 8には有意な差はなかった。したがって、「指導案の内容や書き方をていねいに指導してもらえたかどうか」(NO. 7)や「指導助言のミーティングが毎日あったかどうか」(NO. 8)は保育者になりたい意欲には影響を及ぼしていないことがわかる。

次に、有意な差が見られたNO. 6の残差を見ると、「はい」という答えでは保育者になりたい意欲が「強くなった」が有意に多く ($p < .05$)、「いいえ」という答えでは「弱くなった」が有意に多かった ($p < .05$)。したがって、担任の実習生の受け入れ準備ができていたという肯定的な評価をした学生は保育者になりたい意欲が強くなり、担任の実習生の受け入れ準備ができていなかったという否定的な評価をした学生は保育者になりたい意欲が弱くなっていることを示唆している。

NO. 9の残差を見ると、「はい」という答えでは保育者になりたい意欲が「強くなった」が有意に多く ($p < .01$)、「いいえ」という答えでは「弱くなった」が有意に多かった ($p < .01$)。したがって、実習内容に対してはめられることが多かったという肯定的な評価をした学生

は保育者になりたい意欲が強くなり、実習内容に対してはめられることが少なかったという否定的な評価をした学生は保育者になりたい意欲が弱くなっていることを示唆している。

(5) 実習に対する自己評価に関する項目と保育者になりたい意欲との関係について

実習に対する自己評価に関する項目はNO. 10からNO. 14の5つであるが、表4からわかるように、NO. 10とNO. 14には有意な差があったが、NO. 11とNO. 12とNO. 13には有意な差はなかった。したがって、「設定保育がうまくいったかどうか」(NO. 11)や「事務的な仕事や記録が的確に処理できたかどうか」(NO. 12)や「実習期間中健康で元気に過ごせたかどうか」(NO. 13)は保育者になりたい意欲に影響を及ぼしていないことがわかる。

次に、有意な差があったNO. 10の残差を見ると、「はい」という答えでは保育者になりたい意欲が「強くなった」が有意に多く ($p < .05$)、「いいえ」という答えでは「弱くなった」が有意に多かった ($p < .10$)。したがって、子どもに積極的にかかわることができたという肯定的な評価をした学生は保育者になりたい意欲が強くなり、子どもに積極的にかかわることができなかったという否定的な評価をした学生は保育者になりたい意欲が弱くなっていることを示唆している。

NO. 14の残差を見ると、「はい」という答えでは保育者になりたい意欲が「強くなった」が有意に多く ($p < .01$)、「いいえ」という答えでは「かわらない」($p < .05$)と「弱くなった」($p < .01$)が有意に多かった。したがって、担任の先生との人間関係がうまくいったという肯定的な評価をした学生は保育者になりたい意欲が強くなり、担任の先生との人間関係はうまくいかなかったという否定的な評価をした学生は保育者になりたい意欲がかわらないか弱くなっていることを示唆している。

4. お わ り に

すでに述べたようにアンケートの14項目の内、NO. 1からNO. 5は実習保育所に対する評価に関するものであり、NO. 6からNO. 9は担任に対する評価に関するものであり、NO. 10からNO. 14は実習に対する自己評価に関

するものである。

これらの3つの枠組から見ると、1番目の枠組である実習保育所に対する評価では、5項目の全てで「はい」という答えが「いいえ」という答えを上回り、しかもそれらのすべてが統計的に有意であった。また、2番目の担任に対する評価では、4項目中の2項目において統計的に有意な差があったが、他の2項目では有意な差はなかった。同様に、3番目の実習に対する自己評価では、5項目中の2項目で有意な差があったが他の3項目では有意な差はなかった。したがって、保育者になりたい意欲に最も強い影響を及ぼしているのは、実習生が実習を行った実習保育所の要因、すなわち、実習保育所がアットホームな環境であり、遊び中心の保育をしており、子どもたちが生き生きとして、子どもと担任との関係がうまくいっている保育所であるかどうかであることがわかる。

次に、2番目の枠組である担任に対する評価の結果から言えることは、担任が実習生の受け入れ準備ができていたかどうか、そして、学生の実習内容に対して肯定的な評価を与えていたかどうかの実習生の保育者になりたい意欲に影響を及ぼしている要因であるということである。

そして、3番目の枠組である実習に対する自己評価の結果から言えることは、子どもに積極的に関わったかどうか、担任との人間関係がうまくいったかどうかの実習生の保育者になりたい意欲に影響を及ぼしている要因であるということである。当初私たちはこの3番目の枠組の中でも、NO.11の設定保育がうまくいったかどうかといった保育者としての資質や能力を問う項目の結果が保育者になりたい意欲に最も強い影響を及ぼすのではないかと予測していた。しかし、結果はむしろ実習生個人の实習体験の評価よりも、実習保育所の環境や担任のパーソナリティーの方がより強い影響を及ぼしていることがわかった。

しかしながら、本研究のデータは単年度のものなので、本研究の結果の妥当性をより確かなものにするには、今後さらにアンケート項目を吟味しながら継続的にデータを集積していくことが必要である。

参 考 文 献

1. 関口はつ江・柴原宜幸：教育実習評価に影響を及ぼす実習園側の要因について，保育学研究 第35巻 第2号 pp.110-117 1997
2. 三木知子・桜井茂男：保育専攻短大生の保育者効力観に及ぼす教育実習の影響，教育心理学研究 第46巻 第2号 pp.83-91 1998
3. 田中 敏・山際勇一郎：新訂ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法，教育出版 1992